

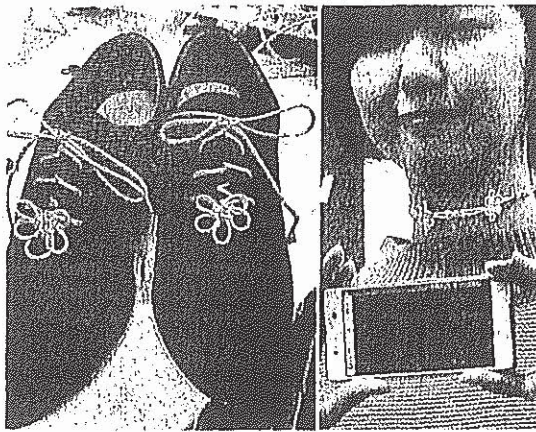
媒体名	朝日新聞(大阪)
掲載日	2017. 1. 13

工芸品の組みひも センサーに大変身

7/19 帝人と関西大、高齢者見守りに

帝人と関西大学は12日、伝統工芸の「組みひも」を使ったセンサーを開発したと発表した。人やペットが身につけることで、特定の動きを感知できるという。

1〜2年後にも遠隔から見守れるサービスを始め、医療やアパレル分野での実用化をめざす。



- ①「圧電組みひも」で作ったチョーカー（首飾り）が首の脈拍を感知し、スマートフォンに動きを伝える
- ②体の動きを感知する「圧電組みひも」を使った靴=いずれも東京都千代田区

て身につけることで、結んだ形に応じて必要な動きだけを信号化できる。データをスマートフォンなどで確認できるようにしたという。

帝人などは、飾り結びにしたものを靴ひもや首飾りにすることで、家にいる高齢者やペットの動きを伝えるサービスを検討している。医療のリハビリ支援やゴルフのスイング確認などにも役立つという。関大の田実佳郎教授は「スマートセンサーとして形も自由に換えられ、日常でも使いやすい」と語った。

加えられた力を電気信号に変える性質がある繊維を使った。この繊維（太さ0・3×0・4ミ）を編んで組みひもにした後、複雑に結んだ「飾り結び」にし